

## 校長室より

校長 西里 俊文

「校長先生 バンバン！！」

弘前聾学校に赴任して早いもので1ヶ月が経とうとしています。

子どもたちと楽しく過ごしたいと、入学式の次の日、どうしたらいいかあれこれ考えていました。

朝、子どもたちが元気に登校してきました。弘前聾学校では、小・中学部の子どもたちが、登校すると、校長室と事務室に寄ってあいさつをしていくことが伝統になっているようで、新任校長の私のところにも来てくれました。

小学部の男の子が校長室に入ると、「おはようございます」のあいさつと同時に、校長に向かって手を拳銃に見立てて「バンバン」と言ってきました。思わず私はこれまで体に染みついてきた経験からか、思わずオーバーリアクションで床に倒れました。その様子を見た男の子は、ニコニコした笑顔でさらに「バンバン」と校長めがけて手の拳銃を撃ってきました。またまたオーバーリアクションをしてから、「校長先生の名前は、にしぎとしふみと言います。よろしくね。」と話す、すぐに私の名前を覚えてくれました。

次の日、友達の同級生と後輩の新生と一緒に、校長室にあいさつに来ました。するとまたすぐに「バンバン」と校長を手の拳銃で狙ってきました。私も更にオーバーリアクションでかえすと、友達の2人も、同じように校長を狙って「バンバン」と手の拳銃で撃ってきました。

校長と子どもたちの朝のあいさつは、こうして「バンバン」しながら、それ以降続いています。バンバンと撃たれるようになって、私自身が当初心配していた子どもたちとの距離は縮まり、そこから「今日の勉強は何をするの?」「楽しかったことは何ですか?」など、私も構えることなく自然と会話を楽しんでいます。

校長は「これから何回撃たれるのだろうか?」「これも数えて算数の勉強につなげてみようかな。」と、今後の展開をわくわくしながら考えています。

子どもたちとのふれあい、その成長をともに喜びたいと感じた1ヶ月です。

